

## 観光におけるトランスクリエーションデザインメ ソッドの活用に関する研究

森田, 正大

<https://hdl.handle.net/2324/4784633>

---

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学) , 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :



氏名	森田 正大			
論文名	観光におけるトランスクリエーションデザインメソッドの活用に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	清須美 匡洋
	副査	九州大学	教授	田上 健一
	副査	九州大学	准教授	田村 良一

## 論文審査の結果の要旨

博士（芸術工学）の学位申請のために提出された本論文は、以下の課題を背景としている。日本の地域社会における少子高齢化や人口減少が背景となり、地方創生における新しい国家施策として観光が一つの柱となった。日本政府にとって世界が訪れたいとなる日本を目指し、地域が観光に対し官民一体で取り組む一方、コロナ禍での現状地域における観光が打撃を受ける中、アフターコロナにおける地域での最大課題の一つとして海外からの多様な観光客に対する異文化交流への不足が課題となっており、元来異文化交流の不得手な日本人にサポートできる方法論やツールの開発が必要不可欠である。

そこで、本研究は国内外の全ての観光客を受け入れる地域及び地域の価値を実際に創造、発信する人々（アクター：Actor）と観光客双方に効果をもたらす双方の文化や価値観の差異を考慮したコミュニケーションプロセスであるトランスクリエーション（Transcreation）という概念に基づき、地域における新たな観光へのデザインプロセスやツールを構築するためのデザインメソッドを提示することが目的である。

本研究は、先行研究から地域価値発現モデルとしての ZTCA モデルを検討し、観光における地域価値発現を再定義し、異文化コミュニケーションに着目すると、トランスクリエーション（Transcreation）という概念を実践的に活用、検証することで観光における地域価値発現プロセスとしてのトランスクリエーションモデルを導出し、さらにトランスクリエーションツールとしてのデザインマップを実践検証することで最終的にモデル、ツールを包含したトランスクリエーションフレームワークとして地域観光の課題に対して新たな実践的なデザイン方法論を提示したことが本研究の優位性である。

序章における本研究の背景、目的、構成に始まり、第 1 章での先行レビューからの地域価値発現モデルと異文化コミュニケーションに着目し、第 2 章、第 3 章ではトランスクリエーション（Transcreation）という概念を用いて、地域価値発現への活用を試み、第 4 章、第 5 章での具体的な方法論、ツールへの実証実験を通して検証、第 6 章で観光における地域での新たな異文化コミュニケーションデザインモデルを提示したことは当分野での今後の研究に対して有意義なものであり、新たなアプローチを示した。よって本論文は博士（芸術工学）の学位に値する。